

令和3年度事業報告

1 令和3年度も前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染症の蔓延により、経済活動が大きく制限され、当協議会においても総会をオンライン開催としたのをはじめ、会員相互の交流の場としてネットワーク交流会を中止せざる得ない等、活動に大きな制約を受けた。

そうした制約の中であったが、令和3年度においては、農林水産省の助成を得て農研機構で開発された「超極細・高染色性生糸」のビジネス化を進めるため、生産体制の整備・確立と当該シルクの特性を活かした絹製品の市場調査の事業を各分科会が協力して実施した。

2 各分科会においては、次の取組みを行う。

(1) PR分科会

昨年度農水省の助成を得て行った 超極細・高染色性生糸を PR するための動画の撮影並びに編集を行い、HP へと掲載した。また、11月に開催されたシルクサミット in 愛媛の場を通じて、国産シルクの化粧品や食品等への新たな利用についての紹介を行った。

(2) 蚕糸分科会

農水省と協力して若手養蚕農家の情報交換会を開催し、若手養蚕農家のネットワーク化を進める。また、国産シルクの新たな需要開拓を目指す事業者とそのような取り組みに関心のある意欲ある養蚕農家とのマッチングを図るため、意欲ある養蚕農家のリスト化を進める取り組みを始めた。

(3) 新機能シルク分科会

「超極細・高染色性生糸」のビジネス化に向け、国の茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業を通じて養蚕農家やJAの担当者への技術研修を行った。また、同事業を活用して繊維分科会と協力し「超極細・高染色性生糸」の生産を行い製品の開発を進めた。

(4) 繊維分科会

昨年度農水省の助成を得て行った 超極細・高染色性生糸の特性を活かした絹製品の開発、製品化に向けた市場調査を行った。

また大日本蚕糸会の支援を受けて国産生糸を使った横編み用ウオッシュャブルシルク糸の開発を進めた。

(5) 新用途分科会

会員相互交流の取り組み実施について計画をしていたが、実施することはできなかった。国立研究開発法人 科学技術振興機構の支援を受け、シルクフィブロインを基盤としたアパレル素材開発を開始した。